

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 2 回軽水炉安全技術・人材ロードマップ高度活用研究専門委員会
開催日時	平成 29 年 2 月 15 日(水) 10:00 ~ 12:00
開催場所	東京大学工学部 8 号館 226 会議室
参加人数	<p>27 名</p> <p>【委員・常時参加者】</p> <p>越塚主査(東大)、芦田(MRI)、阿部(東大)、糸井(東大)、石橋(東芝)、江藤(MRI)、尾野(電事連)、杉山(MRI)、高橋(MHI)、滝沢(MRI)、多田(JEMA)、出町(東大)、宮野(法大)、望月(阪大)、森下(京大)、山本(名大)</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>新井(電中研)、逢坂(JAEA)、梅木(中部電)、金井(METI)、窪田(METI)、黒崎(東芝)、中村(JAEA)、中原(METI)、藤森(電事連)、平林(日立 GE)、宮本(電事連)</p>
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料の確認 事務局が配布資料の確認を行った。 2. ローリング取りまとめ結果の説明 事務局が配布資料を用いて今年度のロードマップのローリング取りまとめ結果の概要を説明した。 3. 達成度評価結果の議論 平成 27 年 6 月にロードマップを公開して以降、産業界や経産省等が取り組んだ研究開発等の安全性向上に向けた取組みの達成度評価結果について内容確認ならびに取りまとめ方法の議論を行った。資料記載内容に対して大きな異論は出されなかったことから、1 週間程度の期間、追加意見を求め、最終取りまとめを行うこととした。 4. 重要度評価結果の議論 評価軸の見直し、評価者の増員、二段階評価の導入を行い、一部見直しを施した課題調査票を含めて重要度評価を実施した結果に関して議論を行った。今回施した評価プロセスは分かりやすく説明する必要があること、特に重要度の三段階評価基準とは異なる評価をエキスパートジャッジにより与えた課題についてはその理由を明確に示すこと、前回から評価結果が変わった理由の分析を施しておくこと等が確認された。 5. 第三者評価結果およびワークショップ企画の確認 ロードマップのローリングに直接的に参画していない有識者 3 名からの第三者としての意見、ならびに地方自治体を含む幅広い一般の意見を取り込むためのワークショップの企画内容について事務局から説明を行った。議論は行わず説明に留めた。コメント等がある場合は事務局へ連絡することとした。 6. 今後のローリング方針の議論 今後のローリングの頻度、体制のあり方、活動資金確保のあり方、重要度評価者

	<p>の公開の是非等に関して議論を行った。議論の結果を踏まえて今後のローリングのあり方を基本方針としてまとめて、最終報告を行うこととした。</p> <p>7. 今後のスケジュール等の確認</p> <p>METI-WG の最終報告は 2 月 27 日に行うこと、今年度の活動成果報告内容は事務局が取りまとめてメールベースで確認を行うこと、次年度の活動も継続していくことを確認した。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 1 回軽水炉安全技術・人材ロードマップ高度活用研究専門委員会
開催日時	平成 28 年 8 月 26 日(金) 9:30 ~ 12:00
開催場所	三菱総合研究所 大会議室 D
参加人数	<p>28 名</p> <p>【委員・常時参加者】</p> <p>越塚主査(東大)、阿部(東大)、糸井(東大)、石橋(東芝)、植田(電中研)、江藤(MRI)、尾野(電事連)、近藤(MRI)、杉山(MRI)、関村(東大)、高橋(MHI)、滝沢(MRI)、多田(JEMA)、出町(東大)、西田(日立GE)、村松(都市大)、森下(京大)、松本(MRI)、</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>新井(電中研)、金井(METI)、黒崎(東芝)、鈴木(JANSI)、中富(METI)、藤森(電事連)、堀内(東芝)、平林(日立 GE)、宮本(電事連)、山本(MHI)</p>
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開催挨拶 越塚主査が開催の挨拶を行った。 2. 配布資料確認 事務局が配布資料の確認を行った。 3. 新会議体設置概要 事務局が登録メンバー紹介、下部組織構成、組織活動規程の確認を行った。 4. ロードマップローリングの基本方針 学会事務局より、ロードマップをローリングしていく新たな体制として立ち上げた研究専門委員会の構成や、ローリングの基本方針について配布資料に基づき説明を行った。また、総合資源エネルギー調査会 原子力小委員会 自主的安全性向上・技術・人材ワーキンググループ（以下、METI-WG）の事務局である資源エネルギー庁原子力政策課より、ロードマップの意義及び策定経緯、学会のローリング活動に対する期待や要望、今後のスケジュール等について説明がなされた。その後、ディスカッションを行い、以下の事項が確認された。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ ローリング活動のうち、METI-WG へ報告していく事項を適切に定め、キャッチボールが成立するよう対応する。 ✓ 達成度評価は、ローリングの主要マターとして対応していく。 5. ロードマップローリングの検討状況 事務局より原子力を取り巻く環境変化を踏まえた検討事例と検討のあり方を紹介した。その後、ディスカッションを行った。その後、ディスカッションを行い、以下の事項が確認された。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 原子力を取りまく環境変化の分析については、主要関係者でさらにしっかりと議論を行い取りまとめて、ローリング結果として反映する。 6. 重要度評価軸の見直しの視点

	<p>事務局より過年度の評価軸・指標の確認と見直しを行う上での方針を説明した。その後、ディスカッションを行い、以下の事項が確認された。</p> <p>✓ 評価軸の見直しは、昨年度 METI-WG で役割分担が確認された様に、学会側の検討事項として対応していく。資料に記載した事務局案に対して、今後検討を行っていく。</p> <p>7. 外部意見の取り入れ方策</p> <p>事務局よりワークショップの規格案、第三者評価のスキーム案の紹介と実施の在り方について説明した。その後、ディスカッションを行い、以下の事項が確認された。</p> <p>✓ 外部意見を取り入れるためのワークショップや第三者評価の実施方法は、今後議論を継続し具体化する。</p> <p>8. 今後のスケジュール</p> <p>今後のスケジュールについては、次回の METI-WG へ学会からローリング活動の中間報告を行う。中間報告対応は幹事中心に進める。今年度の最終報告は年末年始時期を想定する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	